

第8回ヒロシマ賞受賞者決定について

第8回ヒロシマ賞受賞者がオノ・ヨーコ氏に決定しました

ヒロシマ賞は、現代美術の分野で人類の平和に貢献した作家の業績を顕彰し、世界の恒久平和を希求する「ヒロシマの心」を現代美術を通して広く世界へとアピールすることを目的として、広島市が1989年に創設したものです。3年に1回授与されるこの賞は過去7組のアーティストが受賞しており、今回、第8回目のヒロシマ賞受賞者にオノ・ヨーコ氏が決定しました。2011年7月(予定)には第8回ヒロシマ賞の受賞式を行い、あわせて、当館においてオノ・ヨーコ氏のヒロシマ賞受賞記念展を開催します。

オノ・ヨーコ氏は、半世紀以上にわたり、美術家、映画制作者、詩人、音楽家、パフォーマンス・アーティスト、平和活動家など、様々な分野で活躍してきました。1933年に東京生まれ、1953年にニューヨークに移り住んだ後、やがて前衛的な芸術運動集団フルクサスに参加し、詩、音楽、視覚芸術、映画、パフォーマンスなどを混ぜ合わせた実験的な作品を発表します。「インストラクション」と自ら呼ぶ美術作品シリーズは、文字によって書かれたインストラクション(指示)を展示することで、人々の想像力に働きかけ、人々が実際に作品の制作に参加することを目的としたもので、1960年代以降の現代美術の潮流のひとつであるコンセプチュアル・アートの先駆的な作品となりました。オノ氏は、その後も絵画や彫刻など特定のジャンルにとどまることなく、芸術表現の新しい形を創造し続けています。

第8回ヒロシマ賞受賞の理由については、彼女の芸術家としての活動に加え、平和運動にも積極的に関わったことが挙げられます。

1969年の故ジョン・レノン氏との結婚以降は、共同で数々の平和のためのイベントや反戦キャンペーンを行いました。彼らのメッセージは1970年代に地球規模で広がった国際的な平和運動を代表するシンボルともなり、ジョン・レノン氏の死の後オノ氏は「愛と平和」のメッセージを発信し続けています。

1995年には広島への原爆投下50年にあたり楽曲を制作し、同年10月に宮島で平和を祈念するコンサートを開催しました。また同年に当館で開催した被爆50周年記念展「ヒロシマ以後」にも出展しています。

2005年と今年のNPT(核拡散防止条約)再検討会議において、ニューヨークの国連本部で核兵器の廃絶と世界の平和を訴えるスピーチを行うなど、オノ氏のこうした活動が「ヒロシマの心」を世界に伝えることを目指したヒロシマ賞の趣旨に相当すると評価されました。



《天井の絵／イエス(YES)・ペインティング》1966年 エルサレムのイスラエル美術館での展示風景、2000年
Photo by Oded Lobl ©Yoko Ono



オノ・ヨーコによるパフォーマンス《カット・ピース》 ニューヨークのカーネギー・リサイタル・ホール、1965年
Photo by Minoru Niizuma ©Yoko Ono



ジョン・レノンとオノ・ヨーコ《戦争は終わった!》1969年 ニューヨークのタイムズ・スクエア

受賞にあたってのコメント

人類の叡智の力を信じましょう

ヒロシマとナガサキは、人類がその歴史のなかで体験した最大の悲劇のひとつです。

この悲劇は、私たち人間が自ら作り出したものなのです。それ故、その根源を断ち切る叡智も私たちは持っているのです。

私は、その叡智の力を、ここヒロシマで皆さんと一緒に考えてもらいたいと思います。それは、念願だけで山を動かすこともできる凄い力なのです。

そして、私のアート作品を通して世界の人々に、そのことをヒロシマから訴えたいと思います。叡智の力で世界を救いましょう。

ありがとう、ヒロシマの皆さん、愛しています。

2010 年秋

オノ・ヨーコ

略歴

オノ・ヨーコ (小野洋子)

1933 年 2 月 18 日 生まれ、東京都出身。

●略歴

1952 年 学習院大学哲学科入学

1953 年 渡米

1953-55 年 サラ・ローレンス・カレッジ在籍
ニューヨーク在住

●主な個展

1961 年 「オノ・ヨーコの絵と素描」(AG ギャラリー、ニューヨーク)

1962 年 「小野洋子作品発表会」(草月会館ホール、東京)

1971 年 「これはここにはない」(エヴァーソン美術館、ニューヨーク州シラキュース)

1989 年 「オノ・ヨーコ：オブジェ、映画」(ホイットニー美術館、ニューヨーク)

1990 年 「『踏絵』オノ・ヨーコ展」(草月美術館、東京)

1997-98 年 「オノ・ヨーコ：近ごろ水平線を見たことがありますか」(オックスフォード近代美術館、イギリスほか巡回)

2000-02 年 「YES オノ・ヨーコ」(ジャパン・ソサエティー、ニューヨークほか巡回)

2003-04 年 「YES オノ・ヨーコ」(水戸芸術館、広島市現代美術館ほか巡回)

2008-09 年 「YOKO ONO: BETWEEN THE SKY AND MY HEAD」(クスタハーレ・ビーレフェルト、ドイツ/バルティック現代美術センター、ゲーツヘッド、イギリス)

●主な国際美術展

1972 年 第 5 回ドクメンタ (カッセル、ドイツ)

1990 年 第 44 回ヴェネチア・ビエンナーレ

1993 年 第 45 回ヴェネチア・ビエンナーレ

2000 年 第 12 回シドニー・ビエンナーレ

2001 年 第 1 回バレンシア・ビエンナーレ

横浜トリエンナーレ 2001

2003 年 第 50 回ヴェネチア・ビエンナーレ

2008 年 横浜トリエンナーレ 2008

2009 年 第 53 回ヴェネチア・ビエンナーレ (生涯業績部門金獅子賞受賞)



オノ・ヨーコ
Photo by Charlotte Muhl and Sean Lennon, 2009
Courtesy of Yoko Ono



《エクス・イット》スペイン、バレンシアのラルモディ博物館での展示風景、1997 年
Photo by Miguel Angel Valeno
©Yoko Ono



《白のチェス・セット》ロンドンのインディカ・ギャラリー、1966 年
Photo by Iain Macmillan ©Yoko Ono

ヒロシマ賞について

主旨

美術の分野で人類の平和にもっとも貢献した作家の業績を顕彰することを通じて、広島市の芸術活動の高揚を図るとともに、「ヒロシマの心」を広く全世界にアピールし、人類の繁栄に寄与する。

合わせて、この賞を受賞した作家の展覧会を開催して芸術の発展に寄与し、ヒロシマ賞の意義を高める。

選考の基準と選定方法

<基準>

- ・美術の分野（平面、立体、映像、デザイン、建築等）で評価の高い活動を行っている個人あるいはグループ。
- ・ヒロシマの心にふさわしい制作活動を行っている個人あるいはグループ。
- ・美術館で単独の展覧会を開催する意義がある個人あるいはグループ。
- ・国籍、年齢は問わない。

<選定方法>

世界各地の美術館長、美術評論家等で構成する「推薦委員」と、過去の受賞者からなる「特別推薦委員」から推薦された作家等を取りまとめ、国内の美術館長、美術評論家等で構成する「選考委員会」で絞り込みを行う。

その結果をもとに、有識者、美術専門家等で構成する「組織委員会」で、受賞候補者を決定する。

◎第8回ヒロシマ賞組織委員：秋葉忠利（広島市長）、大井健次（広島市立大学芸術学部教授）、大田哲哉（広島商工会議所会頭、広島電鉄株式会社代表取締役社長）、岡部あおみ（武蔵野美術大学教授）、酒井忠康（世田谷美術館館長）、妹島和世（建築家、妹島和世建築設計事務所）、高木一之（広島信用金庫会長、公益財団法人ひろしま文化振興財団理事長、広島経済同友会代表幹事）、高階秀爾（大原美術館館長、西洋美術振興財団理事長 ※組織委員長）、原田康夫（広島市現代美術館館長）、原田佳子（広島女学院大学名誉教授）、部谷京子（映画美術監督）

過去の受賞者

- 第1回（1989年決定） 三宅一生／デザイン
- 第2回（1992年決定） ロバート・ラウシェンバーグ／美術
- 第3回（1995年決定） レオン・ゴラブ&ナンシー・スペロ／美術
- 第4回（1998年決定） クシュイトフ・ウディチコ／美術
- 第5回（2001年決定） ダニエル・リベスキンド／建築
- 第6回（2004年決定） シリン・ネシャット／美術
- 第7回（2007年決定） 蔡國強／美術



第1回ヒロシマ賞受賞記念
三宅一生展 1990年
関連事業「ファッション・ショー」より



第4回ヒロシマ賞受賞記念
クシュイトフ・ウディチコ展 1999年
関連事業「パブリック・プロジェクト
ション、ヒロシマ」より



第5回ヒロシマ賞受賞記念
ダニエル・リベスキンド展 2002年
《ベルリン・ユダヤ博物館》



第7回ヒロシマ賞受賞記念
蔡國強展 2008年
《無人の花園》

広島市現代美術館（ヒロシマ賞担当：洲濱 広報担当：後藤、鈴木）

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1

TEL/ 082-264-1121(掲載用)・082-264-1146(問い合わせ用・学芸直通)

FAX/ 082-264-1198

E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp